

【Ⅱ】 野に咲く春の草花

春の野山に咲く多年草はなかなか多彩な顔ぶれである。まっ先に咲く節分草や一輪草などの可憐な花に始まって、ラン科の熊谷草や敦盛草にいたるまで、季節が少しずつ動くごとに顔ぶれにも変化が現れて、人々の心を楽しませてくれる。またこれらの野草の中には群落を作り、天然記念物に指定されているものも多い。こうした植物に接するとき、1本の草がここまでにいたった歳月の積み重ねに思いを馳せて、決して盗掘したり踏み荒らしたりしないように心がけたいものである。

しかしそんな野草の中には熊谷草や敦盛草のように絶滅寸前のものも少なくない。こうした野草は自然から採取するのではなく、むしろ人間が育てたものを自然に返す努力が期待される場所である。野生のものはとかく採取しても根づかないことが多く、特に高山植物などは、採取してもほんの数時間の命でしかないことも少なくない。しかし人間の手で種子から栽培して育てたものは手間ひまかければ、それなりに育ってくれることも多い。こうした山野草を入手するときは、山採り品ではなく種子から育てたものを、きちっとした店で買い求めることをお勧めしたい。

またここにとりあげる多年草は、キンランのようについ50年前まではありふれた野草であったものも多い。にもかかわらず最近では『絶滅危惧品種』になっている。宅地開発と共に、その美しさゆえに人の手により商売の具とされ、人間の犠牲になってしまったのである。我々はこのこと、そしてとりわけ花も命であることを忘れてはならないだろう。絶滅寸前の品種はますます増えており、キンランに限らず武蔵野の雑木林の周辺で当たり前に見ることができたカタクリも、すっかり姿を消してしまった。これは、たんに雑木林が宅地になったというだけではなく、人間の浅はかな欲望が見え隠れして、なんとも浅ましい気がしてならない。植物は動物と違って人間に対して無抵抗である。逃げることもできなければ、声を出すこともできない。それゆえになおのこと人間の犠牲になりやすい。かりに1株のスミレを野山から採取したら、必ず3株のスミレを野山に返してあげるようにしたいものである。

※絶滅危惧品種＝地球上から消えてしまった生物は、マンモスや恐竜をはじめとして実に多いが、これらは地球環境の変化が最大の原因であった。しかし最近では人間の経済活動の中で絶滅しそうな動植物も少なくない。このため日本では環境省がこうした生物のデータを作り、『レッドデータブック』として公表している。しかしこうした活動はまだ始まったばかりで、第二のトキが出現しないことを願うのみである。



クマガイソウの群落(さいたま市見沼区尾島邸)。

この項に記されている植物のリスト

【Ⅱ】 野に咲く春の草花

01-02-00-1

1) セツブンソウ=節分草	01-02-01-1
2) イチリンソウとニリンソウ=一輪草と二輪草	01-02-02-1
3) ヒトリシズカとフタリシズカ=一人静と二人静	01-02-03-1
4) ヤマシャクヤクとイトバシャクヤク=山芍薬と糸葉芍薬	01-02-04-1
5) イカリソウ=碓草	01-02-05-1
6) オウレン=黄連	01-02-06-1
7) スミレ=堇	01-02-07-1
8) ヤマブキソウ=山吹草	01-02-08-1
9) シラネアオイ=白根葵	01-02-09-1
10) トガクシショウマ=戸隠升麻	01-02-10-1
11) カタクリ=片栗	01-02-11-1
12) ワスレナグサ=勿忘草	01-02-12-1
13) エビネ=蝦根	01-02-13-1
14) キンランとギンラン=金蘭と銀蘭	01-02-14-1
15) シュンラン=春蘭	01-02-15-1
16) クマガイソウとアツモリソウ=熊谷草と敦盛草	01-02-16-1
17) タンポポ=蒲公英	01-02-17-1
18) レンゲソウ=蓮華草	01-02-18-1
19) オドリコソウ=踊子草	01-02-19-1
20) タツナミソとコガネバナ=立浪草と小金花	01-02-20-1
21) ジュウニヒトエ=十二単	01-02-21-1
22) フウランとセッコク=風蘭と石斛	01-02-22-1
23) ミズバショウとザゼンソウ=水芭蕉と座禅草	01-02-23-1
24) ムラサキケマンとキケマン=紫華鬘と黄華鬘	01-02-24-1
25) カキドオシ=垣通	01-02-25-1
26) イワウチワとイワカガミ=岩団扇と岩鏡	01-02-26-1
27) エンレイソウとテンナンショウとヤブレガサ= 延齡草と天南星と破れ傘	01-02-27-1

目次に戻る
